

総務省「放送ネットワークの強靱化に関する検討会」 ご説明資料

平成25年2月27日

文化放送・三木明博
東北放送・一力敦彦
毎日放送・小川輝範
民放連・木村信哉

1. 東日本大震災における民間放送

(1) テレビの対応

- ・ 大震災発生直後、番組を中断して報道を開始
- ・ 地震に関する情報(震度等)や大津波警報に関する情報、被害情報などを映像やスーパー等を活用して全国に発信

【取材体制(東北3県)】 * 東北3県:岩手県・宮城県・福島県

- ・ 系列からの応援を含め、100名を超える規模で放送・取材対応

【特番編成(東北3県)】

| | 特番編成開始時間 | 通常編成に戻った時間 |
|-----|----------------|----------------|
| A社 | 3月11日(金)14時51分 | 4月 2日(土) 4時45分 |
| B社 | 3月11日(金)14時52分 | 3月14日(月) 4時00分 |
| C社※ | 3月11日(金)14時51分 | 5月27日(金)17時54分 |
| D社 | 3月11日(金)14時57分 | 3月16日(水) 4時55分 |
| E社 | 3月11日(金)14時51分 | 3月17日(木)21時00分 |
| F社 | 3月11日(金)14時52分 | 3月15日(火)21時00分 |
| G社 | 3月11日(金)19時00分 | 3月19日(土) 4時00分 |
| H社 | 3月11日(金)14時53分 | 3月22日(火) 4時55分 |
| I社 | 3月11日(金)14時50分 | 4月19日(火) 5時25分 |
| J社 | 3月11日(金)14時54分 | 3月18日(金)19時00分 |
| K社 | 3月11日(金)14時52分 | 3月16日(水) 5時55分 |
| L社 | 3月11日(金)14時51分 | 3月19日(土) 5時55分 |

※:震災以降、通常はドラマリポート枠の午後4時台を5月27日までキー局のニュースを編成した

1. 東日本大震災における民間放送

【テレビ放送内容・番組の具体例】

◆ 在京キー局

- ・ 避難所から被災者の切実なメッセージを放送し、YouTubeでも配信
- ・ 帯編成の情報番組で被災地支援の企画コーナーをシリーズ展開
- ・ タレントやアナウンサーからの「エール」を3秒スポットで放送
- ・ アニメ17番組の“元気”をキーワードにした5秒スポットの放送
- ・ 復旧・復興に向けて頑張る東北地方の観光地を旅番組で紹介

◆ 東北3県12局

- ・ 被災者からのビデオメッセージ
- ・ 被災地への医療アドバイス
- ・ L字画面による交通機関、医療、給水、教育、金融、小売り等の生活情報

1. 東日本大震災における民間放送

(2) ラジオの対応

- ・ 被災状況、安否確認・安心情報、ライフライン情報などを発信
- ・ 被災者を勇気づける内容の番組を数多く編成

【取材体制(東北3県)】

- ・ ラ・テ兼営社： ラジオ部門が総出で放送・取材対応
- ・ ラジオ単営社(AM/FM)： 全社員が総出で放送・取材対応

【特番編成(東北3県)】

| | 特番編成開始時間 | 通常編成に戻った時間 |
|----|---|-----------------------|
| A社 | 3月11日(金)14時51分 | 4月 2日(土) 4時45分 |
| B社 | 3月11日(金)14時46分 | 3月16日(水) 6時45分 |
| C社 | 3月11日(金)14時46分 | 3月22日(火) 6時29分(一部通常※) |
| | ※ 3月22日～3月25日の期間、6時30分～16時で特番編成 | |
| D社 | 3月11日(金)15時 | 3月25日(金)21時00分 |
| E社 | 3月11日(金)14時46分 | 3月26日(土) 5時00分※ |
| | ※ 3月26日5時00分～一部番組と一部CMを通常に戻し、特番体制を継続。4月4日から通常編成と報道特番の比率を逆転させ、一部番組で特番を継続 | |
| F社 | 3月11日(金)15時15分 | 3月26日(土) 5時00分※ |
| | ※ 4月3日5時まで、24時間緊急放送体制を維持 | |

1. 東日本大震災における民間放送

【ラジオ放送内容・番組の具体例】

◆ 在京キー局

- ・ 「震災情報・官邸発」の放送
- ・ 著名アーティストによるメッセージ
- ・ 復興チャリティ番組
- ・ 心のケアを主眼としたリクエスト音楽

◆ 東北3県6局

- ・ 震災関連および放射能測定のリポート番組
- ・ 復興支援番組を朝・昼・午後ワイドで適宜放送
- ・ 復興チャリティ番組
- ・ イベントやキャンペーンと連動した番組

1. 東日本大震災における民間放送

(3) 東北3県民放局の被災状況

【岩手県】

- ・ アナログテレビ78局所、デジタルテレビ46局所の中継局が一時的に停波
- ・ AM中継局3局、FM中継局1局が一時的に停波

【宮城県】

- ・ アナログテレビ49局所、デジタルテレビ40局所の中継局が一時的に停波
- ・ 試験電波発射中のデジタルテレビ中継局1局が津波により流出
- ・ AM親局1局およびAM中継局3局が一時的に停波

【福島県】

- ・ アナログテレビ17局所、デジタルテレビ3局所の中継局が一時的に停波
- ・ デジタルテレビ中継局1局が鉄塔倒壊
- ・ AM中継局1局、FM中継局2局が一時的に停波

2. 東日本大震災におけるラジオの役割 ～東北放送の経験～

(1) 東北放送の震災対応

【放送と取材の初動状況】

| | 気象庁ほか | ラジオ |
|-------|----------------------|---|
| | | 午後ワイド「ロジャー大葉のラジオな気分」 (録音番組「ミュージックスクランブル」)放送中 |
| 14:46 | 地震発生 | 緊急地震速報【藤沢智子アナによる録音音声】(14:46:52～) チャイム「緊急地震速報です。地震が発生しました。すぐに身の安全をはかってください。運転中の方は、急ブレーキを踏まずにハザードランプをつけスピードを落としてください。気象庁が緊急地震速報を発表しました。宮城県に強い揺れが来る恐れがあります。運転中の方は、急ブレーキを踏まずにハザードランプをつけスピードを落としてください。屋内にいる人は、まず身の安全をはかってください」 (一時、通常番組【録音音声】に戻る) |
| 14:48 | | 地震放送(情報センター)に切り替え (揺れる音、悲鳴。16秒間) 鈴木俊光アナ「こちらはTBC、仙台TBC東北放送です。今宮城県地方に大きな揺れを感じています。かなり激しい揺れを感じております。どうか落ち着いて行動してください。情報が入り次第またお伝えしますが、今大きな揺れを感じております。まだ揺れています」 |
| 14:49 | 大津波警報発令 (6m) | 震度情報 「今、入りました情報では、震度6強が宮城県北部、それから宮城県中部、震度6弱が岩手県の沿岸部、岩手県内陸南部、宮城県南部などです」 |
| 14:50 | | 大津波警報呼びかけ 「震度7が宮城県北部と今発表になりました。...津波の恐れもありますので、今しばらくお待ちください」 「今、太平洋沿岸に大津波警報が発表になりました。(繰り返し)気象庁は2時50分、宮城県の太平洋側に大津波警報を出しました。大津波が押し寄せ大きな災害の起きる恐れがあります。予想される津波の高さは、高いところで平常の海面より3m以上です。特に三陸沿岸では非常に高くなる場所があります。厳重に警戒してください。海岸にいる方はただちに避難してください。なお、宮城県の津波到達時刻ですが、3時、間もなくです。今時刻は2時52分です。予想される津波の高さは6mです。ただちに避難してください。(繰り返し)」 |
| 14:51 | 余震 福島県沖 M6.8地震 | |
| 14:58 | 福島沖M6.4地震 | |

2. 東日本大震災におけるラジオの役割 ～東北放送の経験～

| | 気象庁ほか | ラジオ |
|-------|------------------------------|---|
| 15:03 | | EWS(緊急警戒放送)発信 |
| 15:06 | 岩手県沖M6.4地震 | 津波への警戒や余震への注意、震度情報のお知らせなど続く。 女川原発自動停止。 新幹線すべて運転停止。 仙台市内大規模停電。 |
| 15:08 | 岩手県沖M7.4地震 | |
| 15:12 | 福島県沖M6.1地震 | |
| 15:14 | 大津波予測10m以上 政府「緊急災害対策本部」設置 | |
| 15:15 | 茨城県沖M7.6地震 | |
| 15:21 | | (女川情報カメラ) 「こちらのスタジオには、女川の情報カメラの映像がでています。モニターでは、波の変動は分かりません」 「海が渦を巻くような不自然な動きをしています。小さな漁船が転覆し船底を上になっているのが見えます。既にかかなりの波の高さで家屋を襲っています。車が波にのまれて押し流されていきます。もう既に女川では屋根のひさしの辺りまで波が来ています。高さは4、5mに達していると思われます。2階部分まで波が達しているようです」 |
| 15:25 | 三陸沖M7.5地震 | 津波への警戒や余震への注意、震度情報のお知らせなど続く。 津波情報、宮古4m、大船渡3.3m、釜石4.2m、鮎川3.3m観測。 東北自動車道全線通行止め。 気仙沼市、津波で一部地域に大きな被害が出ている模様、などの情報。 |
| 15:57 | | (仙台空港情報カメラを見ながら) 「仙台空港の様子が今入ってきました。仙台空港に今、津波が押し寄せています。滑走路に津波が上がってきています。仙台空港の滑走路、海側から津波が上がってきています。駐機場に津波が押し寄せ、ボーディングブリッジの下を津波が洗っていきます。非常に恐ろしい光景を目にしています。大きな津波が襲っています。荷物を運ぶ車も流されています。今また余震が起きています」 「仙台空港の情報カメラの映像が、スタジオのモニターに入ってきています。今の生の様子です」 |
| 16:12 | 官邸で緊急災害対策本部会議 | 津波への警戒や余震への注意、震度情報のお知らせなど続く。 南三陸町は、建物3階まで浸水。 宮城、山形は、ほぼ全域停電。 仙台市若林区荒浜に津波が到達の模様。 県警によると、仙台港で高さ10mの津波確認、などの情報。 |
| 16:20 | 「東北地方太平洋沖地震」と命名 | |

2. 東日本大震災におけるラジオの役割 ～東北放送の経験～

(2) 特別番組の放送体制

◆アナウンス部・ラジオ局・技術局以外にも、営業・事業・社長室等の応援を含め
およそ40名体制で放送

【アナウンス部】 18名でラジオ・テレビのシフト

【制作部】 他部署や派遣D、外部Dの応援を得て、基本的に2交替で放送
(8時～20時・20時～8時) 10名～15名体制

【系列局からの応援】 TBSラジオ記者派遣のべ3名(3月13日～4月1日)
3月13日～3月25日: 2名体制(途中1名交代)
3月26日～4月 1日: 1名体制

【中継等】 ①宮城県警・宮城県災害対策本部
②ラジオカー(地震発生時から毎日1台稼働)
③TBS車・自転車(携帯電話でのレポート)

【他局との連携】 三陸の被災地の長期取材の拠点となる「JNN三陸臨時支局」
を系列局で立ち上げ、デスクとクルーを派遣

◆ 3月22日午前6時29分まで、およそ256時間の報道特別番組をCM無しで
放送

2. 東日本大震災におけるラジオの役割 ～東北放送の経験～

(3) 送信所(親局・中継局)の被災

【荒井ラジオ送信所(親局)】

津波により床上数センチ浸水、屋外1m超の津波でフェンス倒壊・エアコン室外機破損等敷地内の被害甚大

→ 停電に伴い非常用発電機で電源を確保し、放送を継続したが、燃料が枯渇により一時的に停波



荒井ラジオ送信所(海岸部から約2.4km、海拔高約2m)

【気仙沼ラジオ中継局】

地震動により一部破損



気仙沼ラジオ中継局

【デジタルテレビ中継局(志津川新井田)】

津波により流出

※ その他設備の被災

- ・ 乗用車(中継所管理用、報道用)
- ・ ヘリコプター
- ・ 女川情報カメラ 等が津波により流出



<震災前>



志津川新井田D中継局

<震災後>

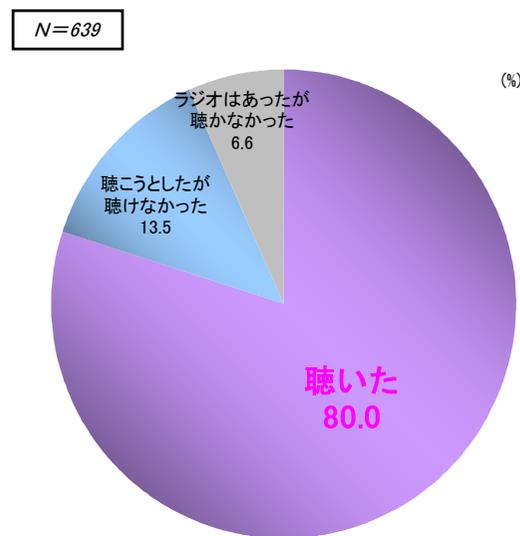
2. 東日本大震災におけるラジオの役割 ～東北放送の経験～

(4) 災害放送に対する評価

(東北放送「ラジオに関するアンケート」(平成23年7月)より)

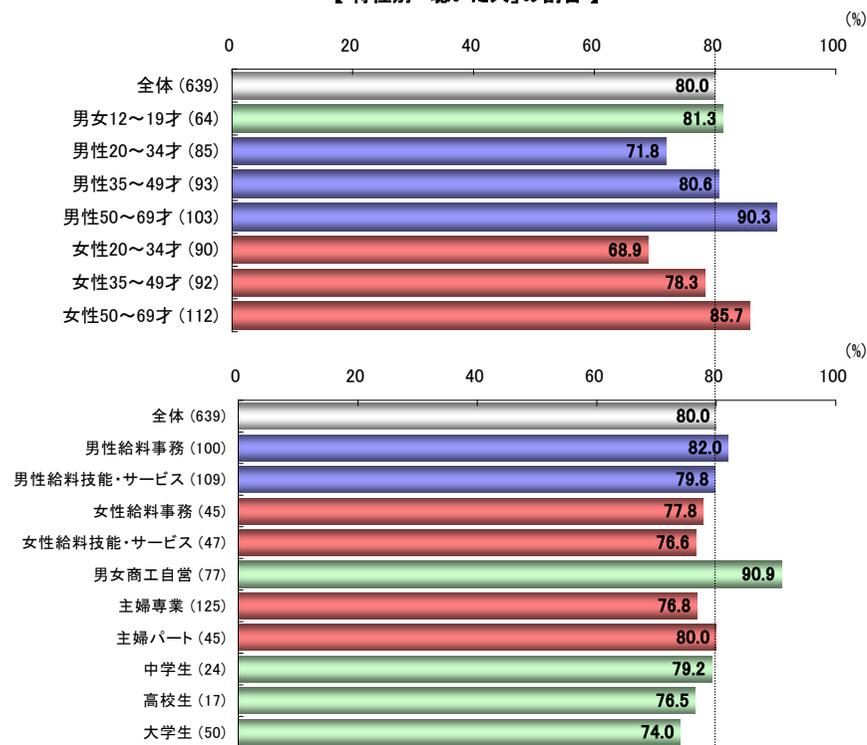
◆ 震災当日のラジオ聴取有無

- 震災当日は8割の人がラジオを聴いた
(聴こうとしたが聴けなかった人を含めると93.4%)



調査地域: 仙台市
 調査対象: 調査地域に居住する12～69歳の男女(小学生除く)639人
 抽出方法: エリア・ランダム・サンプリング法
 調査方法: 訪問留置法
 調査期間: 2011年7月11～17日
 調査企画: 東北放送
 調査実施: ビデオリサーチ

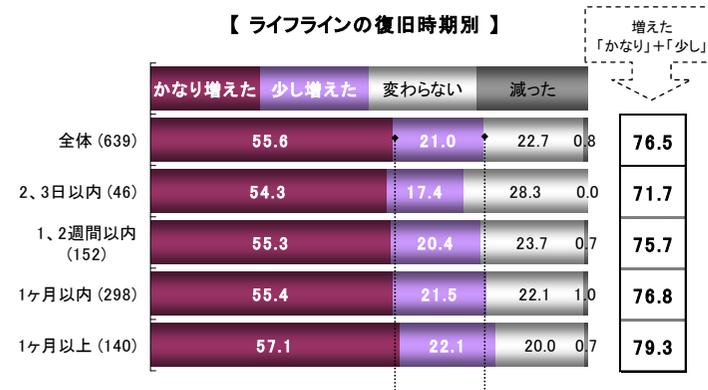
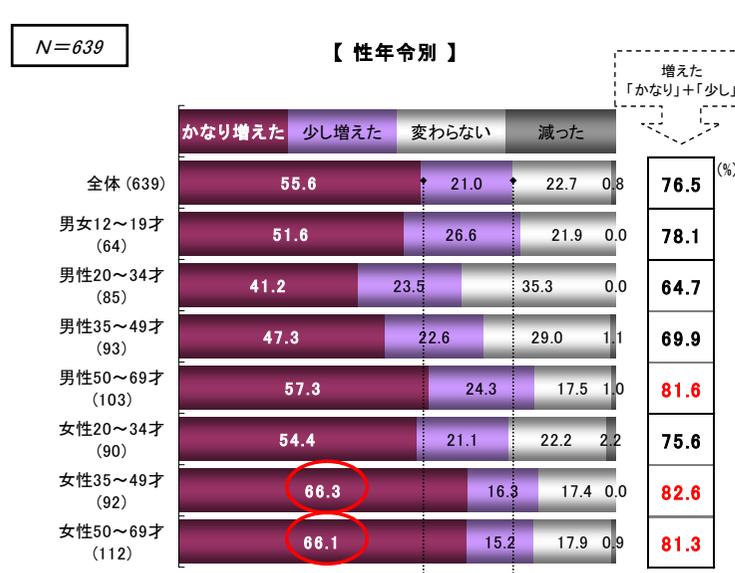
【特性別「聴いた人」の割合】



2. 東日本大震災におけるラジオの役割 ～東北放送の経験～

◆ 震災直後のラジオ聴取機会の増減

- 聴取機会が「かなり増えた」と回答した人は半数を超え55.6%
「少し増えた」人を含めると76.5%の人が「増えた」と回答



2. 東日本大震災におけるラジオの役割

(5) 臨時災害放送局等の設置

- ・ 臨時災害放送局(災害が発生した場合に、その被害を軽減するために、地方公共団体等が開設する臨時かつ一時の目的のためのFMラジオ放送局)の免許状況

| | 市町数 | 局数 |
|-----------------------|----------------|----------------|
| 東北3県 (岩手県/宮城県/福島県) | 18 (5/10/3) | 20 (6/11/3) |

(平成24年12月21日現在)

- ・ 民放事業者の協力事例
 - IBC岩手放送が、山田町にFM中継局「IBC山田災害臨時ラジオ」を設置し、同社のラジオ放送番組を中継
 - エフエム岩手およびエフエム東京が、「釜石災害エフエム」の設置に協力
 - 毎日放送が、「大船渡災害エフエム」の設置に協力
 - ラジオ関西が、「南三陸災害エフエム」の設置に協力

(参考)

- 新潟県中越地震(平成16年10月23日発生)の際、新潟放送が川口臨時ラジオ中継局(AM)を設置
- 阪神淡路大震災(平成7年1月17日発生)の際、毎日放送が伊丹臨時災害FM中継局の設置に協力

2. 東日本大震災におけるラジオの役割

(6) 被災地に対する全国各地のラジオ局の取り組み

- 放送やイベントを通じて、被災者への義援金を募集
- 出演者によるオリジナルCDの収益金を寄付
- 東北から避難者を招待したライブの実施
- 風評被害払拭のための観光や農産物のPR番組の制作、物産フェアの実施
- アナウンサーによる被災地での朗読イベントの開催
- 県外の避難所での炊き出しの実施
- ボランティアバスの運行
- チャリティコンサート、ライブの実施
- 支援活動やボランティア活動の放送での取り上げ
- シンポジウムの開催

2. 東日本大震災におけるラジオの役割

◆ 在京キー局の取り組みの具体例

- ・ リスナー家庭にある使わなくなったラジオを集め、被災地に届けるキャンペーンを平成23年3月18日(金)～27日(日)の10日間、特設会場をメインに実施
- ・ その結果、6,765個のラジオが集まった
- ・ さらに、自局・他局で用意・収集したラジオを加え、8,072個のラジオを点検・整備し、そのうち4,636個を、岩手・宮城・福島の東北3県の系列局や避難所、茨城県の避難所や市役所へ届けた(平成23年3月30日時点)



2. 東日本大震災におけるラジオの役割

(7) その他の関連したラジオの取り組み

◆ 「災害時における帰宅困難者へのラジオ情報提供に関する協定」締結

(2013年2月)

- 首都圏ラジオ10社※と一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会(JFA)の間において締結

※文化放送、TBSラジオ&コミュニケーションズ、ニッポン放送、エフエム東京、J-WAVE、エフエムインターウェブ、FM NACK5、ベイエフエム、RFラジオ日本、横浜エフエム放送

- 大規模な地震(警報発令等のその他災害)が発生した場合において、被災住民および帰宅困難者に対し、JFAの「安全対策委員会」に参加する本協定賛同会社のコンビニエンスストアなどで、常備しているラジオをつけて、情報を提供してもらうもの
- 対応する店舗数は、東京・神奈川・千葉・埼玉の1都3県でおよそ17,000店舗

3. 東日本大震災におけるラジオのメディア価値

(1) 民放連研究所「東北地方太平洋沖地震とメディア利用行動」(平成23年3月)

- ・ 比較的被害が小さく震災直後に調査可能であった東京、神奈川、埼玉に住む人びとが、地震後にどのようなメディア利用行動をとったのかを調査
- ・ メディアからの情報がどの程度役に立ったかを尋ねたところ、「ラジオは非常に役に立った」と利用者の約半数が回答

(%)

| | 該当人数 | 非常に役に立った | かなり役に立った | 多少は役に立った | あまり役に立たなかった | まったく役に立たなかった |
|-------------------------|------|-----------|-----------|----------|-------------|--------------|
| テレビ放送 | 718 | 44 | 33 | 19 | 3 | 0 |
| ワンセグ | 227 | 33 | 33 | 28 | 6 | 0 |
| テレビのデータ放送 | 46 | 37 | 39 | 17 | 7 | 0 |
| ラジオ放送 | 218 | 46 | 32 | 18 | 4 | 0 |
| 政府系ホームページ | 61 | 25 | 30 | 30 | 13 | 3 |
| マスコミのホームページ | 100 | 25 | 30 | 40 | 2 | 3 |
| ニュースサイト | 381 | 23 | 39 | 32 | 5 | 1 |
| 掲示板、コミュニティサイト、Twitterなど | 158 | 37 | 30 | 28 | 4 | 1 |
| その他のインターネット | 58 | 33 | 31 | 29 | 7 | 0 |

調査対象: 15歳以上70歳未満の男女1,265人
 (ネット調査会社のモニタ会員)
 調査地域: 東京都、神奈川県、埼玉県
 抽出方法: 都県別人口(性年齢)構成により割当
 調査方法: インターネット調査
 調査時期: 2011年3月23日~25日
 調査機関: ㈱マクロミル

3. 東日本大震災におけるラジオのメディア価値

(2) 民放連研究所「東日本大震災時のメディアの役割に関する総合調査」(平成23年10月)

- 地震・津波からの避難の実態とその際にメディアがどう利用され、どう評価されているのかなどを調査

① 地震・津波から避難するのに実際に役に立った情報源は → 「ラジオ」、「家族等周りの人々」

地震・津波から避難するのに実際に役に立った情報源をお聞かせください。
(役に立った＝“非常に役に立った”、“かなり役に立った”、“やや役に立った”の合計：7段階評価)

| % | 仮設調査 | | ネット調査 | |
|---|-------|------|-------|------|
| | 役に立った | 接触なし | 役に立った | 接触なし |
| ラジオ(カーラジオを含む) | 29.2 | 59.4 | 69.3 | 23.1 |
| テレビ(携帯電話のワンセグ、車載テレビを含む) | 12.4 | 69.6 | 46.9 | 25.1 |
| 携帯電話の通話 | 3.4 | 64.6 | 10.8 | 21.5 |
| 固定電話の通話 | 1.0 | 81.6 | 3.2 | 42.3 |
| メール | 3.6 | 72.6 | 22.3 | 24.0 |
| Twitter | 0.2 | 95.4 | 3.4 | 72.5 |
| mixi、掲示板、フェイスブックなどのSNS | 0.0 | 95.8 | 4.6 | 71.7 |
| ニュース・地震/災害関連サイトなどのウェブサイト | 0.8 | 93.2 | 8.7 | 60.4 |
| 動画/ストリーミングサイト(Youtube、ニコニコ動画/ニュース、Ustream等) | 0.4 | 95.4 | 2.1 | 72.2 |
| 防災無線(屋外拡声器、屋内受信機) | 21.6 | 60.6 | 17.1 | 51.3 |
| 自治体・警察・消防等(広報車あるいは口頭での呼びかけ) | 21.4 | 67.4 | 23.6 | 42.5 |
| 家族、隣人、友人等周りの人々 | 43.6 | 41.8 | 53.3 | 19.2 |
| 自分の経験と知識 | 24.8 | *** | 24.5 | 21.2 |

仮設住宅居住者調査(仮設調査)
調査対象: 仮設住宅に居住する20歳以上の男女500人
調査地域: 仙台市、名取市、気仙沼市、陸前高田市の
仮設住宅で各125人割当て
調査方法: 聞き取り調査
調査時期: 2011年8月19日～28日
調査機関: (株)サーベイリサーチセンター

ネットユーザー調査(ネット調査)
調査対象: 15歳以上70歳未満の男女2,268人
(ネット調査会社のモニター会員)
抽出方法: 対象地域(岩手県、宮城県、福島県の各沿岸部市区町村)の年齢構成により割当
調査方法: インターネット調査
調査時期: 2011年9月6日～16日
調査機関: (株)マクロミル

3. 東日本大震災におけるラジオのメディア価値

② 総合的にみて役に立ったものは

→ 避難者は「ラジオ」、「家族等周りの人々」

自宅にいた人は「ラジオ」、「テレビ」

| 総合的にみて、役に立ったもの(非常に+かなり:7段階評価) | | | | | |
|-------------------------------|----------------|-------|-------|----------------|-------|
| 仮設調査 | | | ネット調査 | | |
| 当日 | | | | | |
| 1 | ラジオ | 43.2% | 1 | ラジオ | 66.3% |
| 2 | 家族、隣人、友人等周りの人々 | 40.4% | 2 | テレビ | 37.1% |
| 3 | 自治体・警察・消防等 | 10.4% | 3 | 家族、隣人、友人等周りの人々 | 31.2% |
| 4 | テレビ | 10.2% | 4 | 新聞 | 13.6% |
| 5 | 自分の経験と知識 | 8.0% | 5 | メール | 11.1% |
| 翌日・翌々日 | | | | | |
| 1 | 家族、隣人、友人等周りの人々 | 55.0% | 1 | ラジオ | 68.9% |
| 2 | ラジオ | 53.2% | 2 | テレビ | 41.4% |
| 3 | 自治体・警察・消防等 | 18.4% | 3 | 家族、隣人、友人等周りの人々 | 36.3% |
| 4 | 新聞 | 14.4% | 4 | 新聞 | 25.9% |
| 5 | テレビ | 13.6% | 5 | メール | 18.7% |
| 3日後～1週間後 | | | | | |
| 1 | ラジオ | 58.6% | 1 | ラジオ | 64.1% |
| 2 | 家族、隣人、友人等周りの人々 | 55.0% | 2 | テレビ | 60.3% |
| 3 | 新聞 | 34.0% | 3 | 家族、隣人、友人等周りの人々 | 41.4% |
| 4 | テレビ | 26.6% | 4 | 新聞 | 39.8% |
| 5 | 自治体・警察・消防等 | 22.6% | 5 | メール | 30.6% |

3. 東日本大震災におけるラジオのメディア価値

③ 震災発生から1週間後頃までの期間での信頼度

→ 「ラジオ」をはじめとしたマスメディアと「会話」が高いスコア

ネット調査
震災発生から1週間後頃までの期間で下記のメディアやコミュニケーション手段からの情報はどの程度信頼できましたか。(7段階評価)

| メディア/手段 | % | 非常に信頼できた+かなり信頼できた | あまり信頼できなかった+ほとんど信頼できなかった |
|---|------|-------------------|--------------------------|
| ラジオ | 64.2 | 1.2 | |
| テレビ | 48.9 | 8.4 | |
| 新聞 | 43.4 | 6.6 | |
| 携帯/固定電話での家族・親戚・友人・知人との通話 | 36.1 | 9.5 | |
| メール | 31.5 | 10.9 | |
| Twitter | 3.7 | 10.7 | |
| SNS、掲示板、フェイスブックなどのソーシャル・ネット | 5.7 | 10.6 | |
| ニュース・地震/災害関連ポータルサイトなどのウェブサイト | 16.7 | 9.8 | |
| 動画/ストリームサイト(Youtube、ニコニコ動画/ニュース、Ustream等) | 5.2 | 10.6 | |
| 避難所、被災現場等での自治体、自衛隊、政府等の組織からの情報提供 | 14.7 | 9.2 | |
| 避難所、被災現場等でのボランティアおよびボランティア組織等からの情報提供 | 11.2 | 8.4 | |
| 周りの人や家族・親戚・友人との口頭での会話 | 40.3 | 3.1 | |

3. 東日本大震災におけるラジオのメディア価値

<考察>

- 東日本大震災では、広範囲の停電が長時間続いたことが、ラジオがかなりよく利用され、高く評価されたことの最大の要因
- ラジオが持つリスナーとの距離の近さやリスナーに直接語りかけるような臨場感、密着感が信頼度や精神の安定の点で高く評価された背景になっていることは十分考えられる
- ネットユーザーへの調査で、仮設住宅調査以上にラジオへの評価が突出して高かったことにも注目すべきであり、恐らくは、震災前にはあまりラジオに接触することがなかったネットユーザーの多くが、震災を契機としてラジオの効用を認識したものと推測される

4. AMラジオの送信所に関する課題

(1) AMラジオの送信所(親局・中継局)の立地

- AMラジオの送信所は、電波発射を効率よく行うためにアース(接地)線を広い範囲に張り巡らす必要があり、また空中線(アンテナ)自体も長大なものとなる
- このため、AMラジオの送信所は、都市郊外の広大な敷地(海辺等)に立地することが多く、特に中継局は沿岸部に多い。



MBSラジオ高石送信所



4. AMラジオの送信所に関する課題

(2) AMラジオの送信所の更新・老朽化

- 民放AMラジオ社の約半数が、2020年度までに親局主要設備の更新時期を迎える(主要設備とは、電力設備、送信機、空中線支線、空中線など)
- 空中線の更新には、移転して整備する必要があるため、広大な敷地と多額の費用が必要

(3) 防災等を目的とした対策事例

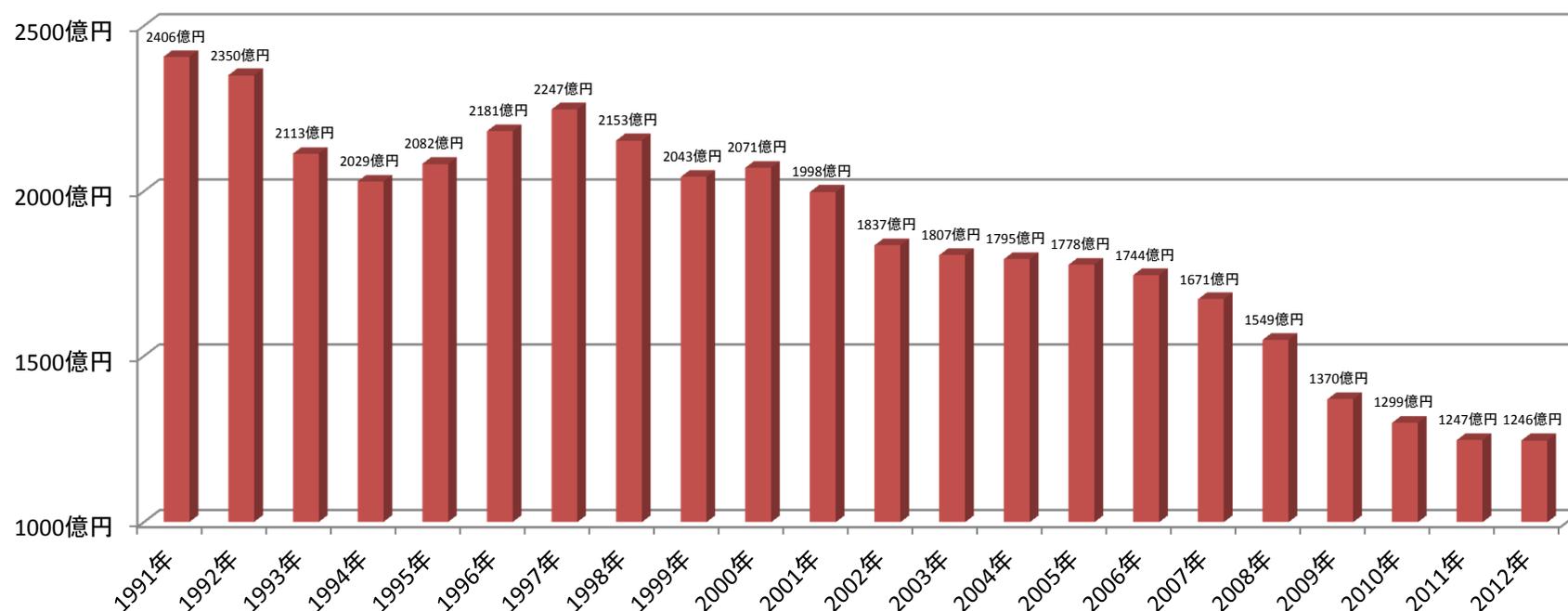
- 非常時用ラジオ予備送信所の設置
- 非常用発電機の燃料タンクの容量増大、燃料供給ルートの確保
- 無停電電源装置(UPS)の導入
- 設備の据えつけ

5. ラジオ事業者の経営状況

(1) 広告収入の減少

【電通「日本の広告費 2012」】（平成25年2月）

- 2012年のラジオ広告費は1,246億円（前年比99.9%）で、2002年の1,837億円から10年間で約2/3（約67.8%）に減少。ここ約20年では、1991年の2,406億円をピークに漸減傾向で、2012年実績は約51.8%の水準



5. ラジオ事業者の経営状況

【民放連研究所「2013年度のテレビ、ラジオ営業収入見通し」】(2013年1月)

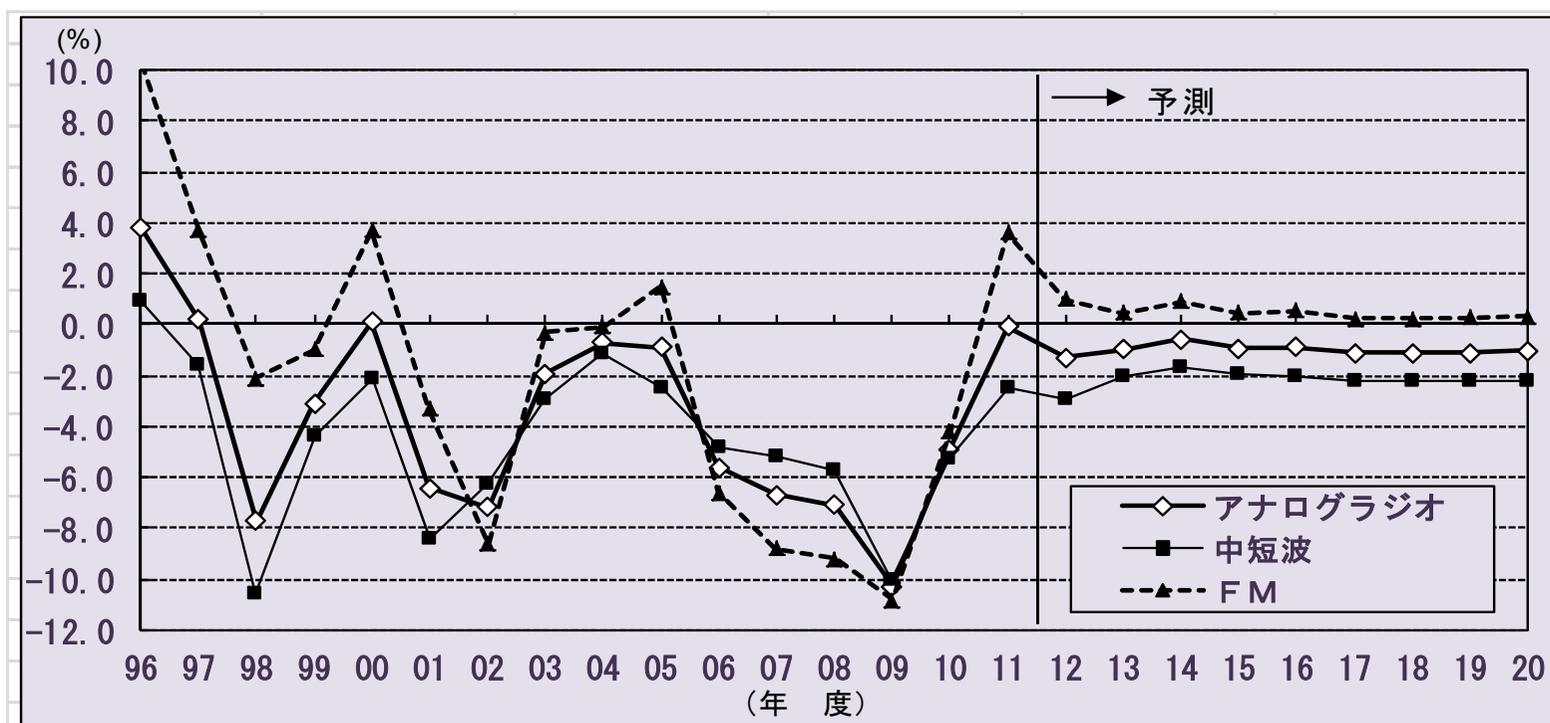
- ・ 2013年度の地上波ラジオ営業収入は全体で0.7%減、中短波1.6%減、FM 0.5%増の見込み

| 前年同期比伸び率 (%) | 2011年度 (実績) | 2012年度(見込み) | | 2013年度(予測) | |
|-----------------|----------------|-------------|--------|------------|-------------|
| | | 上期(実績) | 下期(見込) | | |
| 営業収入計 | 0.0 | -1.2 | -0.4 | -1.9 | -0.7 |
| うち被災3県以外 | -0.3 | -1.2 | -0.4 | -1.8 | -0.6 |
| 被災3県 | 9.6 | -0.9 | 0.7 | -2.4 | -2.5 |
| 中波・短波 | -2.4 | -2.6 | -3.3 | -1.9 | -1.6 |
| FM | 3.8 | 0.9 | 4.0 | -1.8 | 0.5 |
| スポット計 | -2.1 | -4.2 | -4.1 | -4.2 | -0.5 |
| うち被災3県以外 | -3.3 | -3.3 | -2.6 | -4.0 | -0.3 |
| 被災3県 | 19.5 | -17.0 | -25.3 | -7.6 | -3.4 |
| 中波・短波 | -3.4 | -4.2 | -6.0 | -2.4 | -1.2 |
| FM | -0.6 | -4.1 | -1.5 | -6.4 | 0.4 |

5. ラジオ事業者の経営状況

(2) 地上波ラジオ営業収入前年度比伸び率の推移と予測

【民放連研究所「2012～2020年度のテレビ、ラジオ営業収入中期見通し」】(2012年12月)



(年平均増減率：%)

| 年 度 | 96-00 | 01-05 | 06-10 | 11-15 | 16-20 |
|----------|-------|-------|-------|-------|-------|
| アナログラジオ* | -1.3 | -3.4 | -6.9 | -0.8 | -1.1 |
| 中短波 | -3.6 | -4.2 | -6.2 | -2.2 | -2.2 |
| F M | 2.9 | -2.2 | -7.9 | 1.3 | 0.3 |

*デジタルラジオを含まないベース。コミュニティ放送を除く。